

【第38回中国ミニバスケットボール交歓会に参加して】

MJクラブ 高山 直樹

2019年1月4日から6日の三日間、岡山県総社市で行われた中国大会に参加しました。

山陽地方での大会は雪の心配はあまりないが、早朝出発は少し辛い。

新年の1月3日に初練習と必勝祈願を済ませた登録選手15人と保護者、スタッフは、1月4日の午前4時に眠い目をこすりながら静かに大型バスで長府駅を出発した。

9時に岡山「きびじアリーナ」に到着した一行は、まだ目覚めてないのかいつもの賑（にぎ）やかさはなく、お行儀のいいMJクラブである。挨拶を済ませ体育館に入ったら、「さむっ！」瀬戸内海側の気候といってもさすがにこの時期は寒い。気温マイナス1度、快晴の総社市である。これからの3日間、気を引き締めるにはうってつけの寒さである。気合が入ってきた！

ズバリ！優勝！を目標として臨んだこの大会！初日で勢いづけるための入念なミーティングで気持ちを昂らせ、島根県代表の「津田ミニ」と対戦した。立ち上がりのチグハグさも後半からは修正でき、38-23で何とか勝利することができた。

しかしもっと大事なのは2回戦で、ここで勝てばベスト8が決まる。前日の勝った勢いをそのまま試合に持っていけるか、またまた試合前のミーティングで策を授け、熱い心で戦った。

対戦相手は、鳥取代表の「上小鴨ミニ」である。県を勝ち上がって出場しているだけに速くて大きく、5年生が主体になりがちなMJクラブは非常に厳しい戦いが続く。しかし、2q目に出てきたスーパースターを小さな5年生がしっかり守ってくれたおかげでチームが勢いづき、45-35で勝利することができた。

よし！このままベスト4だ！と臨んだ準々決勝の対戦相手は岡山代表の「伊島」。試合が始まって7点リードし、その差を保ち1q残り2分。相手チームと自チームの5年生同士の頭が衝突した。自チームの選手は目の上が少し腫れ、相手チームの選手は頭から出血したとのことで治療するとの審判から話があり少々待つことに。・・・まだあ？まだあ？体が冷える。10分後に試合再開。完全にゲームのリズムを失った若いチームを「伊島」は容赦なく攻め続ける。終盤に執念の粘りを見せたものの、46-45の1点差で惜しくも敗戦。翌日の5～8位決定戦に回るようになった。スッキリしない試合となった。

スッキリしないままの最終日初戦は岡山の「西御南」。身長は高くないものの激しいディフェンスで相手のミスを誘うバスケスタイルにMJの選手はダジダジ！1qでリードするも2qであつという間に逆転され苦しい展開へと。その後は追いつくこともなく、50-42で敗戦となり、6位入賞も逃してしまった。

中国大会最終戦、5試合目は地元岡山にふさわしい名の、「桃太郎」チーム。・・・お腰につけた吉備だんご♪～一つ私にくださいな♪～と独りで歌いながら廊下を歩いていると、プッ！と後ろから近づいたどこかのチームに笑われる始末。(あちゃー)
最終試合はリラックスして笑顔で頑張ろう！選手を送り出すと、元気いっぱいのプレーが次から次へと出てきた。重くなっていた気持ちを自分自身で払いのけるかのようなスッカリとした勝ち方、45-34で勝利をすることができた。
最終成績は第7位。6位までの入賞を逃したが、中学や高校に行ってもバスケットを続けて、その悔しさを晴らしてほしいと思います。

3日間で5試合。多くの試合を行うことができとてもありがたかったです。また、岡山県ミニバス連盟の温かなもてなしを頂き、気持ちよく試合ができたことに感謝いたします。さらに、山口県勢による応援も心強く、この大会をより印象深いものにしてくれました。
長くなりましたが、心に残る良い大会だったことをご報告します。
山口県ミニバス連盟から派遣されたMC、審判団、大会役員等多くの関係者の皆様、新年早々大変お疲れさまでした。

2019年1月吉日

以上



写真 お互いに応援しあった平生ミニバスと帰路につく前に（1月6日）

第 38 回中国ミニバスケットボール交歓大会に出場して

MJ クラブ #4 キャプテン 大本 純弥

僕達 MJ クラブはこの 1 年間、たくさんの練習や試合で力を付け、秋の県決勝大会での優勝を目標に頑張ってきたが、準決勝で 1 点差で負けて 3 年ぶりの中国大会出場となりました。

出発の朝の集合時間はとても早かったですが、岡山が近づくにつれ、やってやるぞという気持ちがとても強くなっていきました。

4 年生の時に、全国大会の試合に出場した時にはとても緊張しましたが、最上級生として迎えたこの中国大会はリラックスして試合に臨むことが出来ました。

初戦の津田(島根)戦では、試合の入りはあまり良くありませんでしたが、3Qからは速攻も出るようになり勝つことが出来ました。

2 日目の上小鴨(鳥取)戦でも、ディフェンスで良く足を動かして勝つことが出来ました。次の準々決勝の伊島(岡山)戦ではアクシデントもあり、上手く試合の流れをつかめず、簡単なシュートやフリースローを落としてしまい、1 点差で負けたのがとても悔しかったです。

最終日の西御南(岡山)戦にも、その悪い流れのまま試合に臨んでしまい敗退しましたが、最後の 7 位決定戦の桃太郎(岡山)戦では、今まで共に戦って来た山口県の仲間達が応援してくれて、チームも波に乗り勝つことが出来ました。今までライバルとして戦ってきた西浦、平生のみんなと友情を深めることができたのは、かけがいのない思い出です。

この中国大会を通じて僕が嬉しかったのは、MJ のバスケットの特長である「しつこいディフェンスから早いオフェンスへの切り替え」をチーム一丸となり、最後までやり通せたことです。

僕自身としては、1 対 1 からのシュートを正確に決めきる力や相手に負けない身体づくり、もっと強い気持ちで試合に臨む等の課題が見つかりました。もっと努力して良いバスケット選手になりたいです。

第 7 位という結果は悔しいですが、ここまで僕達を指導してくれた監督やマネージャー、コーチ、支えてくれた家族と応援して下さったみなさんに感謝の気持ちで一杯です。

中国大会に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

